

みず

No.36
道彩展機関紙

道彩展機関紙“みず”第36号
発行 北海道水彩画会
道彩会代表 小堀 清純
札幌市西区発寒5条8丁目
13-24-1101号
年1回発行



<http://www.ne.jp/asahi/so-bi/net/dousai/>

第39回 道彩展を終えて

2019年9月18日
9月23日
札幌市民ギャラリー

質・レベルが向上

道彩会代表 小堀 清純

第39回道彩展は188点の作品が搬入され、厳選した119点を展示。入場者数も千人を超え、盛会裏に終了しました。審査は活発な意見を交わす中、無記名投票で公正に実施しています。他公募展と同様に応募者はやや減っていますが、多様性のある表現と具象・抽象画等、ヴァリエティに富む作品が多く、充実した展覧会となり好評でした。僅少差で賞を逃した方の今後の奮闘を期待しております。
来年は第40回記念展であり、五年毎に作成している図録に掲載する傑作を期待しております。また、応募者を増やす方策として、各人が真剣に水彩仲間に出品するよう呼びかける必要があると痛切に思います。最後に会員・会友が競い合い、観る人に感動を与える作品を描くよう頑張ります。

第39回道彩展受賞者

道彩展賞

松山 頌子 (札幌)

北海道知事賞

佐藤 亜子 (札幌)

札幌市長賞

馬場 結香 (札幌)

札幌市教育長賞

馬場恵美子 (札幌)

北海道新聞社賞

林 正行 (札幌)

八木賞

宮武 輝久 (江別)

伸子賞

岩崎ますみ (札幌)

奨励賞

青山まみ子 (苫小牧)

矢倉千津子 (石狩)

原 貴子 (石狩)

高田登志子 (札幌)

渡部八代子 (登別)

亀倉安規子 (札幌)

会友努力賞

嶋倉 駿子 (札幌)

会員推挙

大東奈保子 (札幌)

大山 栄子 (北斗)

嶋倉 駿子 (札幌)

竹本 靖子 (札幌)

長谷川英夫 (札幌)

山田 明夫 (札幌)

会友推挙

岩崎ますみ (札幌)

佐藤 亜子 (札幌)

宮武 輝久 (江別)

渡部八代子 (登別)

馬場恵美子 (札幌)

馬場 結香 (札幌)

独創の花が咲いた 第39回展

美術評論家
柴橋 伴夫

第39回展の会場を後にして一番感じたことがある。それは多彩な作品が並び、1点1点が個性の輝きを放っていたことだ。類似な作品はほとんどない。それはすごいことでもある。さらにいえば、個々の作家が自らのテーマや課題を背負いながら真摯に掘り下げていることを明確に示している。

ここでは私見を交えながら、まず受賞者の作品をみてみる。道彩展賞の松山頌子は、具象と抽象のはざままで卓上花を角度を変えて描いた。考察する眼を感じた。札幌市長賞(会友推挙)の馬場結香は、日常の一コマを温かい色調で包みこみ、さらに室内と外を繋ぐことで構図の面でも斬新さを感じた。道知事賞(会友推挙)の佐藤亜子はエゾシカとの遭遇、その瞬間を活写した。北海道新聞社賞の林正行は、御神木の根の張りや苔の描写に生氣あり。視座の確かさと筆致が合致していた。札幌市長賞(会友推挙)の馬場恵美子の樹は、直截的で生命感あり。ただやや後景の空間が弱く感じた。風景描写では、奨励賞の亀倉安規子と青山まみ子はデッサン力が的確であり、空間のニュアンスを上手に醸し出している。奨励賞の原貴子は、静物を大きな量感として捉え律動を生起させた。同じく奨励賞の矢倉千津子と高田登志子の2作には、もう少し対象を把握するデッサン力がほしい。渡部八代子(会友推挙)の作品は、抽象平面を意識しているが、フォルムと色彩の純化がほしい。八木賞(会員推



「初夏の森」青山まみ子



「芽吹き季節」馬場恵美子

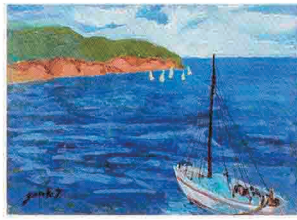


「花。花。花。」松山頌子

挙)の宮武輝久は、軽快で明度の高い空間を現出し、独自の感性を發揮。伸子賞(会友推挙)の岩崎ますみは、色彩対比を活用し人物を描いた。ただ花束と顔にひと工夫がほしい。会友努力賞(会員推挙)の嶋倉駿子は、朝陽の空の変幻づくりに妙あり。会員推挙では4人の作品に注目した。竹本靖子は油絵のような質感を造形。大東奈保子は白をベースにして卓上の鮭を把握。これからも斬新な色構成と抽象化を目指してほしい。大山栄子は反射する光景、その実と虚の対比を洗練させた。山田明夫は遠近を意識し空間を構成した。ここで視点をかえて、心に残った作品を挙げておきたい。林田理栄子は、二人の騎士を自在な筆致で表現。新規なものを志向した意欲作。辺見富美子の月めぐりは独自の視点がいい。中田やよひは、花を垂直に配置し、重厚な空間を描出。小堀清純は、南小樽の陸橋からの風景をじっくりと再現し新境地をみせた。最後に私からみた意欲作を記しておきたい。伊東幹子の真夏の彩り、沢口キエの花の道、富所謙の赤い風景、芳賀淳子の旧市街地、勇内山和子の沈む、伊勢幸久の眺望、高橋欣也の大雪山、鳴海ヒコ子のサイロ、鈴木いずみのSAMBAなど多数あった。来年は40回の記念展となる。さらなる創意に満ち溢れた意欲作を期待したい。



「反射する風景」大山栄子



「オタモイの海 1」竹本靖子



「テーブル上の穀物」原貴子

受賞者の声

佐藤 亜子

ここ数年、主人や母と森を巡り、そこに住まう木々や動物の美しさを発見し、再び絵を描くという想いに至った。紙に向かってそれらを描くことは、そこに宿るカミイを探し再確認することのように思う。描いている

モノに「お前の感じた風は、光は、何色でどんな匂いなのだ。」と問われるのだ。色を重ね、これかあれかと試行錯誤するのが苦しくも楽しい。まるで修行だ。けれど、そこに浸っている時間、確かにその精霊はともにいる。ありがたいことだ。

馬場 結香

大事にしていることは、主人公の子どものこんなに可愛い表情をいかに観てくれる人達に伝えるか、ということ。そして、そこに物語性が表現できたらいいなと思って構図を考えています。その際はその子どもが居る空間の後方にある別な空間を感じる作品を心がけています。基本的にはポスターカラーを使用していますが、油性クレパスの揺らぎがある線も好きなのでよく使います。上手な絵は描けません、観た人の気持ち動き、印象に残る作品をこれからも創作していきたいと思っています。

渡部八代子

私自身賞を頂けて驚きました。主人が軽い脳梗塞で病院へ、盆明けに手術して、寝たっきりにはならなかったものの大変でした。そんな時に「破壊」が頭に浮かびました。思えば「夜のバラ」で入選していなかったら今

の私は居なかったと思います。それに初の賞を頂いた時も子供が交通事故に会いました。「華演」という作品でした。変な巡り会わせだと思えます。佐藤展子さんに初めてお会い出来た事も幸運でした。有難うございます。これからも、もっと精進しないと思っています。

第12回 研究会

6月28日、第12回研究会を写真会として北大構内で行いました。

当日の朝の天気予報を基に運営委員で協議し、雨が心配される天気でしたが決行しました。

参加者は会員・会友11名、一般2名の計13名でした。一時小雨が降ったものの、昼前には陽が射し、14時からの合評会では、快晴の下で小堀代表を中心に約20作品に対し画評が活発に行われ、参加者から「楽しかった」との感想も得て終了しました。今後の課題として、中止・決行の連絡方法等が挙げられました。

20 行事計画

第39回委員会友展

2月18日(火)〜2月23日(日)
ギャラリー大通美術館

研究会 内容未定

第40回記念道彩展
9月16日(水)〜9月21日(日)

札幌市民ギャラリー
搬入8月21日(金)

道彩会地区展 函館展 未定
道彩会地区展 江別展 未定

道彩展に関する
お問い合わせ

道彩会事務所 辺見富美子
江別市ゆめみ野東町12-5
(011)385-8210

函館地区連絡所 寺岡 弘子
函館市西旭岡町2-23-3
(0138)50-2611

江別地区連絡所 中島 恭代
江別市野幌若葉町46-31
(011)385-4217

第40回記念道彩展
作品公募

- 会期 2020年9月16日(水)〜9月21日(月・祝日)
- 会場 札幌市民ギャラリー
- 搬入 2020年8月21日(金) 10:00〜18:00

<http://www.ne.jp/asahi/so-bi/net/dousai/>

来年は記念展のため搬入が早くなります。お間違いのないようお願いします。

編集後記
今年の猛暑は湿度が高く厳しいものでした。そんな中で製作されたであろう力作が揃い素敵な展覧会となりました。振り返って「みず」をお届けします。嶋倉・渡辺